

▼企業経営に関する誤解と真実について講演した永井猛教授



◀自らの経験を通して、参加した若い経営者にアドバイスした深谷友尋相談役
講演者に感謝の拍手をする参加者たち

第1回次世代経営者会議

若い経営者一堂で熱気

互いに紹介し合い、熱心に交流

日遊協主催の「次世代経営者会議」の初会合が8月27日、東京・千代田区のグランドアーク半蔵門

で開かれ、日遊協の全国5支部と同友会から若手経営者・幹部、本部から庄司孝輝会長、会議の担当副会長である韓裕副会長とリーダー

の西村拓郎東京都・関東支部長（理事）、日野洋一理事など計45人が参加した。

参加者の年齢は概ね40歳未満。榎本善紀京楽産業(株)社長、栢森秀行ダイコク電機(株)社長、木原海俊(株)大都技研社長、金海基泰(株)ユー

コー社長、山中康敬(株)マタハリー社長、平本直樹(株)プローバ社長、岸野誠人東和産業(株)副社長、大泉秀治(株)オーイズミ副社長、庄司眞一(株)ピーアークホールディングス(株)専務、里見治紀セガサミーホールディングス(株)取締役から、まだ20代の若い幹部までが一堂に会した。また、業種もホール、遊技機メーカー、販社、設備機器、景品卸等多岐にわたった。

冒頭、主催者として西村リーダーが、「若い経営者・幹部たちが業界横断的に集まることができるのは日遊協ならではの強みで、非常に貴重であり、成果を楽しみにしている」と挨拶した。

次世代経営者会議は、次代を担う若手経営者・幹部たちが日遊協活動を通じて結束し、日遊協及び会員企業の組織基盤をより強固なものにして将来に継続させていくことが目的の勉強会。原則として3か月に1回開催する。今年度はこの後、11月と来年2月の開催を予定している。

永井猛早大教授が講演

第1回の27日は、特別講演を早稲田大学ビジネススクール、早稲田大学大学院商学研究科教授永井猛氏が、続いて基調講演を日遊協前会長の深谷友尋相談役が行った。

永井氏は「あなたの会社のマーケティング・経営戦略の再点検」と題し、講演した。「リーダーシップとは、努力すれば達成可能で、しかも半歩先を行く適切な目標を設定できる能力のことだ。目標は高いほうがいいといって、絶対できそうにない目標を設定されたら誰もがんばらない。そういう経営者はリーダーシップがないといえる。また、欲しい人材が採れないのは、会社を魅力的にする投資を怠っているから」などと厳しく指摘した。

深谷相談役は「業界革新を」

一方、深谷氏はホールの現状について、「現状ではヘビューザーが圧倒的に多く、極端な頭でっかち型だ。結果的にそれがホールをだめにし、お客様をだめにし、メーカーも販社も苦しい目を味わう形態が出来上がってしまった。底辺（ライトユーザー）が広いピラミッド型のほうが安定しているのは一目瞭然だ」と述べた。その上で業界の抜本的改革を強調し、「それには14団体が一体になって革新的議論を進めることが必要であり、そのためには現在5つあるホール団体は解消して1つになって考えを統一していくべきだ」と提案した。

最後に韓担当副会長が「創業者の皆さんは道なき道を力強く切り開いてきた。われわれの世代の役割はさらに情熱をもって取り組み、次の世代につなげて行くということにほかならない」と閉会の挨拶をした。

この後開かれた懇親会で、参加者たち1人1人がマイクで自己紹介。さらに名刺交換や懇談で熱心

「店に来るきつかけを」

機械の実務者会議もスタート

全日遊連、日遊協、日工組による「現行遊技機に関する打ち合わせ」第3回会合は8月22日、全日遊連大会議室で開かれた。全日遊連から阿部恭久副理事長ら15人、

日遊協から大久保正博副会長ら8人、日工組から渡辺圭市理事ら3人が出席した。このうち遊技機担当の実務者として11人（全日遊連6人、日遊協3人、日工組2人）が今回初めて顔をそろえ、実務者だけの協議も行われた。

この会合は、遊技人口の減少が深刻化する中で、ファン拡大施策の1つとして休眠層の復帰と初心者への勧誘を念頭においた遊技機（パチンコ）のキャンペーンを、3団体で協議していくというもので、6月以降毎月開かれている。

今回の会合で、全日遊連はキャンペーンの遊技機を「4円パチンコで十分に使えて、今より金がかからず、そこそこの遊技時間が可能なやさしいパチンコ」と定義し

た。その上で、新たに新機種を開発するには時間がかかるので、現行遊技機の仕様を手直ししてリリースすることを提案した。

一方、日遊協は8月8日に行った内部の実務者打ち合わせの内容を報告したが、遊技機の定義は「安く長く遊べる遊技機」と、全日遊連とほぼ共通していた。その上で、キャンペーンとして「遊べるパチンコ・パチスロプロジェクト

ト」休眠層にパチンコ・パチスロを遊技していただくために「（仮称）を提案した。この中で、「お友達紹介プレゼントキャンペーン」（仮称）などの業界向けキャンペーン、「レッツ！エンジョイばちんこキャンペーン」（仮称）などの一般ファン向けキャンペーンの2種類のキャンペーンを構想している。

今後は機械担当の実務者会議とキャンペーン担当者の会議を同時進行させながら全体会議で詰めて行き、来年4月25、26日に東京・秋葉原で予定される、日遊協主催の「パチンコ&パチスロフェスタ2014」を1つのゴールとしてキャンペーンを構築していくことになった。

広報調査委員会

第4回エッセー・絵手紙の募集テーマ

「パチンコ・私の遊び方」「パチンコに思うこと」

第4回パチンコ・パチスロエッセー・絵手紙コンクールのテーマを決めた。前回の委員会（7月23日）以降、テーマ候補を7つに絞り込み、7支部（北海道、東北、

東京都・関東、中部、近畿、中国・四国、九州）の支部長に投票

人も含めて広く参加できそうな点が支持された。エッセー、絵手紙とも、業界、一般を問わず広く募集する。募集開始は従来通り11月の予定で、今後は選考・発表までの日程、ポスター、賞品等を確認していく。告知はポスター、チラシ、公募ガイド、Webなどを中心に行う。さらに、多くの目に触れるチャンスを創出するため、受賞作品を映像化してYouTubeチャンネル等に流す提案があった。

過去のコンクールの応募状況を見ると、第1回（2010年募集）のエッセー1663点、絵手紙533点に対して、第2回（11年募集）がエッセー407点、絵手紙256点と全体に減り、第3回（12年募集）ではエッセー457点、絵手紙332点と盛り返した。

日遊協ホームページの中の社会貢献コンテンツを、CSR活動（企業の社会的責任）に拡大して発信できるようにする改訂案が出された。

広報誌「女性企画」を担当

会員企業の女性社員にインタビューして、本誌に連載する企画「遊技業界の女性たち（仮題）」が提案され、広報調査委員会が全面

8月23日

本部会議室

出席委員等11人

してもらった。その結果を参考に

審議した結果、エッセー、絵手紙共通で、①「パチンコ・パチスロの遊び方」②「パチンコ・パチスロに思うこと」――の2つに

決定した。①は現役のファン向け、②はパチンコ・パチスロをしない



楠芳伸 保安課長

8月、北海道警務部長。広島県出身。47歳。

協力していくことを確認した。国や企業が女性の活用に積極的に取り組む始めている折から、パチンコ・パチスロ業界に働く女性たちの活躍ぶりや女性が意欲的に働ける環境を整えている企業姿勢を紹介していく。インタビューを広報調査委員会が担当する。今秋連載を開始し、原則として隔月掲載の予定。

警察庁生活安全局人事

保安課長に楠芳伸氏

警察庁は8月30日付で、古谷洋一生活安全局保安課長の長崎県警本部長への転出に伴う後任の保安課長に楠芳伸北海道警警務部長(写真)を発令した。

楠氏は京都大学法学部卒。1989年警察庁入庁。千葉県警刑事部長、警察庁会計企画官兼会計課理事官、警視庁犯罪抑止対策本部副本部長兼刑事・交通・警備・地域・公安・生安・組対部参事官を経て、12年8月、北海道警務部長。広島県出身。47歳。

人材育成委員会

8月9日
本部会議室
出席委員等11人

マネジメント・カレッジ

テーマ「パチンコの未来」 「若手経営者の討論」を実施

第7回遊技産業マネジメント・カレッジ(11月21、22日、晴海グランドホテルで予定)のテーマ等

を固めた。大テーマとして「パチンコの未来」を展望し、サブテーマとして①遊技産業の社会的役割②ファンの増加——とすること、特別講演をせず、代わりに若手経営者によるパネルディスカッションを行うことを確認した。

第9回人材育成フォーラム(9月20日、日遊協本部会議室)の内容を固めた。今回はディスカッション

古谷氏は12年3月から約1年5か月、保安課長を務めた。同氏の在任中、警察庁からは「野玉再プレイシステムの利用に伴う手数料の取扱いについて」「ばちんこ営業において客に付与されるポイントの扱いについて」(ともに12年4月)、「ばちんこ営業における広告、宣伝等の適正化の徹底について」(12年7月)等の重要な通知が遊技業界に発されたほか、遊技機の検定申請の簡素化(12年11月)、各種申請に係る手数料の改正(12年12月)が行われた。

理事官に野地章氏

警察庁は8月7日付で、生活安全局保安課理事官兼同局調査官に野

地章同局生活安全企画課理事官を発令した。野地氏はさる7月22日付で同庁長官官房付(外務省に派遣)に転出した小堀龍一郎保安課理事官の後任となる。

課長補佐に大門雅弘氏

警察庁は8月22日付で、玉川達也生活安全局保安課課長補佐の同局生活安全企画課課長補佐への転出を発令した。玉川氏は、2011年2月から2年7か月近く保安課課長補佐を務めた。

警察庁は8月30日付で、玉川氏の後任の保安課課長補佐に大門雅弘広島県警捜査二課長を発令した。大門氏は一橋大学経済学部卒。03年警察庁入庁。大阪府出身。32歳。

ョンを主体にし、「新卒採用」「女性採用の取り組み」の2テーマについて情報交換や意見交換を行うことになった。

景品関連促進PT

8月6日
本部会議室
出席委員等13人

中間報告案を提出

討議反映してまとめへ

佐々木敏栄リーダーが、これまでの景品関連促進に関する調査、検討の経過と提案をまとめ、次のような中間報告を提出した。

- コンビニ商品をホール賞品として提供する(株)ポネールの試行実験の内容
- ホールへの商品提供についてコンビニとの協議内容と課題
- ホールへの商品提供について1000円シヨップとの協議内容と課題
- パチンコ業界向けPB賞品の提供についての課題
- 流通業とホール営業者それぞれのビジネス提携の要件
- ファンが特定人気賞品以外の賞品に交換するための環境整備の提案

それぞれの項目について協議されたが、特に最後の「環境整備の提案」に関しては様々な角度から意見が出された。この結果を反映して中間報告をまとめ、11月の理事會に提出することになった。